

ソ連共産党地区委員会とその政策決定にかんする実証研究

——モスクワ市オクチャープリ地区党委員会の事例 一九八八～九〇年——

中村逸郎

- 一 問題の提起
- 二 地区党組織協議会
- 三 地区党委員会総会
- 四 ビューロー
- 五 結論

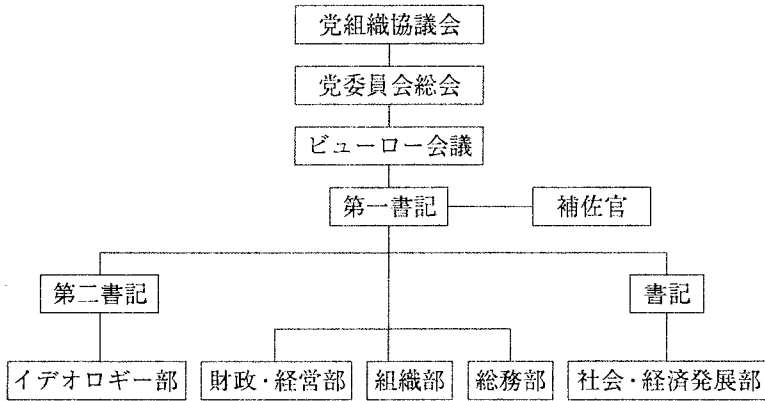
一 問題の提起

旧ソ連国家体制を構成していたのは、ソ連共産党ではなく「ソビエト」である。ソビエトは、ソ連国家の立法・行政機関であり、頂点にはソ連邦最高ソビエト、底辺には地区ソビエト、または村ソビエトなどが位置していた。それらの頂点と底辺の間には、共和国ソビエト、州ソビエト、市ソビエトなどが介在し、ソビエトはソ連邦を構成する骨組みと

なっていた。しかし、ソビエトは共産党に支配され、国家の立法・行政機関としての自立性を失っていたのである。正確に言えば、政治組織の共産党と国家機関のソビエトは性質的にまったく別個の組織である。しかしそれにもかかわらず、現実には両者は複雑に交わり、共産党の指導機関はソビエトのピラミッド型の構成に対応して設置されていた。各級ソビエトを共産党の各機関が指導していたために、ソビエトの機能は形骸化してしまっていたのである。

共産党とソビエトの関係は、ソビエト（ロシア）政治研究者にとつて、ソ連政治を考えるさいのもっとも重要なテーマであった。というのも、ソ連の政策はソビエトではなく、実際には共産党によつて決定されていたからである。そもそも共産党の決議は、党員にたいしてのみ強制力をもっているのであつて、非党員の国民を拘束するものではない。これにたいして、ソビエトの決議は建前的には、有権者によつて選出された人民代議員が採択し、党員であろうとなかろうと国民を拘束する。このように共産党よりもソビエトのほうが、国民全体にあたる影響力ははるかに大きいはずであつた。しかしすでに指摘したように、ソ連国家の重要な政策はソビエトではなく、共産党によつて決定され、共産党の決議がそのままソ連国家の決定であるかのよう^①に考えられた。

本稿の研究対象となる地区党委員会は、ソ連における唯一の政治権力の担当者である共産党の末端の指導機関として、労働者、農民、住民と直接に交わる政治の現場を構成していた。個々に見られる政治現象は、ソ連社会の底辺における政治構造の一つの反映である。しかし、地区党委員会がいかに構成され、党権力がそれとおしてどのように行使されるかについての研究はほとんどない。本研究の目的はモスクワ市党委員会の下級党機関の一つであるオクチャーブリ地区党委員会の政治構造とその政策決定の仕組みを解明し、ソ連共産党の消滅の原因を党下部機関から内在的に考えることにある。



図表1 オクチャープリ地区党委員会の構成

二 地区党組織協議会

地区党組織協議会は、ソ連共産党綱領によれば「地区党組織の最高議決機関」である。この党協議会の代議員は、初級党組織の黨員集会で一般黨員たちが直接に選出する。党協議会は通常、ソ連共産党綱領にもとづいて二、三年に一度の割合で、地区党委員会総会の決議にもとづいて開かれる。臨時の党協議会は、地区党委員会総会の決議または全党員の三分の一以上の要求があれば、開催される⁽²⁾。この党協議会では、地区党委員会第一書記が基調報告を行い、代議員たちが諸問題について議論し、地区党組織の活動方針となる決議を採択する。そして最後に、地区党委員会の新しい委員を選出し、閉幕する。

(一) 開催手続きと準備過程

あとで検討する地区党委員会総会とビューロー会議の開催準備と文書の作成は、「オクチャープリ地区党委員会機関における文書の取扱い規定」のなかに定められているの⁽³⁾にたいして、地区党組織協議会の開催準備については規定がない。一九八八年二月二四日に開催された第三回オクチャープリ地区党組織協議会を例にして、その開催手続きと準備過程を再現してみよう。

この党協議会の準備は、開催の四カ月前にはじまった。同年八月三〇日に地区党委員会総会が開催され、第三四回地区党組織協議会の開催の日時と会場、代議員選出のための代表比率を定めた。「ソ連共産党モスクワ市オクチャープリ地区組織第三四回協議会招集にかんする決議」が採択された。この地区党委員会総会の議事録には、つぎのように書かれている。「一、ソ連共産党モスクワ市オクチャープリ地区組織第三四回協議会の開催日は一九八八年二月二十四日、会場はモスクワ国立アカデミー児童音楽劇場。二、ソ連共産党モスクワ市オクチャープリ地区組織第三四回協議会の代表比率は、ソ連共産党員一〇〇名にたいして代議員一名を選出する。党員が一〇〇名以上の初級党組織では、五〇名ごとに一名の代議員を選出する。三、党員が一〇〇名以下の初級党組織では、一名の代議員を選出する。四、地区内に駐屯する軍隊のなかの党組織は、この代表比率にしたがつて代議員を選出する」。党協議会の代議員は、この決議にしたがつて各初級党組織で開催された「報告・選挙集会」で選出された。この党員集会は通常二、三年おきに開催され、初級党組織の活動を総括し、新しい党カードルを選出する。

第三四回党協議会の本格的な準備は、地区党委員会機関の部長たちが中心となり、二カ月前に開催された「準備会議」でもってはじめた。この会議で作成された「作業分担リスト」⁴には、党協議会に必要な文書の作成担当者とその活動内容が記載されている。党協議会の準備で重要なものに、地区党委員会第一書記の基調報告と党協議会の決議案の作成がある。基調報告の作成責任者は、地区党委員会機関組織部の副部長（女性）である。彼女はこの任務に専念するために、同年一月九日以降、ほかの職務から解放された。このように基調報告の作成は、党協議会の一カ月前にはじまった。彼女は一週間で基調報告の草案を作成し、第一書記補佐官が主催する「基調報告準備グループ会議」に提出した。この準備グループには第一書記補佐官、組織部副部長のほかに、イデオロギー部長、社会・経済発展部長ら一〇名が加わった。決議案の作成責任者は、地区党委員会機関イデオロギー部長である。かれは同年一月一五日までに作成し、地区

党委員会第二書記を中心とする「決議案準備グループ会議」に提出した。地区党委員会の最高指導者である第一書記は、基調報告と決議案の作成に直接に参加しない。これらの文書の作成は、地区党委員会機関員との集中的な作業によって進められる。

地区党組織協議会の重要な議題は、地区党委員会総会と地区党組織管理・監査委員会の構成員の選出である。地区党組織管理・監査委員会は、オクチャブリ地区組織の財政・経営状態と党員の日常活動を監督する。これらの党組織の人事問題を担当するのは、組織部長である。かれは初級党組織から選出された二五一名のなかから、地区党委員会総会の委員と委員候補および地区党組織管理・監査委員を選ぶ。そしてその名簿は、党協議会に提出され、代議員の採決にかけられる。組織部長は名簿の作成過程で、二五一名の候補者から六四名を削除した。残った一八七名が、地区党委員会総会の委員一〇三名と委員候補二三名、地区党組織管理・監査委員六一名に振り分けられた。実際にはこれらの党組織の定員はソ連共産党規約に定められておらず、いわば慣習となっている。この慣習にそって候補者が分けられ、党協議会ではたんなる信任投票になってしまった。

ゴルバチョフ書記長は一九八七年一月のソ連共産党中央委員会総会において、党機関カードルを選出するさいには複数候補制を導入するように提唱した。オクチャブリ地区で実施されたその二年後の今回の選挙では、組織部長はゴルバチョフの提案を実行しなかった。イデオロギー部長の話によれば「人選は組織部長の思惑によって行われ、かれが望ましいと判断する党員は地区党委員会総会の委員に、あまり好ましくないと思う党員は名簿から削除されるか、地区党委員会総会委員候補または管理・監査委員会の構成員に回される。組織部長は、地区党委員会機関に従順な党員だけを地区党委員会総会の委員に選抜した」ようである。さきの「作業分担リスト」にしたがって組織部長は、一月五日に地区党組織協議会に提出する地区党組織委員会総会の新しい委員の名簿を、地区党委員会機関の各部に配布した。組織

部長は各部長の口頭による同意を得たうえで、第一書記に報告した。

党協議会の開催当日は「幹部会」「書記局」「編集委員会」「資格審査委員会」から構成される「作業グループ」が議事を運営する。このグループの構成員を選出するのは、組織部長である。「幹部会」は党協議会の一切の活動を指揮し、地区党委員会の三人の書記を含めて三〇名から構成される。「書記局」の任務は、党協議会の議事録を作成することであり、第一書記補佐官、総務部長ら一〇名が参加する。「編集委員会」は第一書記、第二書記、イデオロギー部長を中心に一〇名から構成され、党協議会の決議案を、代議員たちの意見、提案、批判を考慮して修正する。「資格審査委員会」は組織部長ら一〇名からなり、初級党組織から党協議会代議員に託された委任状と（代議員を選出したさいの初級党組織の黨員集会の）議事録を点検し、地区党委員会総会が定めた代表比率とソ連共産党中央委員会の施行細則「党機関幹部の選挙実施について」が守られているかを確認する。そのあとで、代議員たちに「代議員証」を発行する。^⑧ 組織部長は作業グループの構成員名簿を、事前に開催される「地区党組織協議会代議員代表者会議」に提出する。^⑨ 党協議会の開催当日における交通手段の手配は社会・経済発展部部长が、地区党組織協議会で必要な投票用紙の準備は社会・経済発展部の副部长が担当した。総務部長は、党協議会に提出される文書と資料のなかで用いられる用語を統一し、組織と機関の名称を点検する。^⑩

今回の党協議会では、はじめての試みとして代議員にたいして事前にアンケート調査が実施された。イデオロギー部長が、アンケートを作成した。この冒頭には、つぎのように書かれている。「拝啓 同志諸君、ソ連共産党モスクワ市オクチャーブリ地区組織第三回協議会の代議員に選出されたことをお祝する。重要な意味を持つ地区党組織協議会が開催されるにあたって、地区生活と党組織の焦眉の問題にかんする調査に参加していただきたい。ペレストロイカの複雑な過程のなかでのオクチャーブリ地区党委員会の役割について、諸君の意見を聞くことはわたしたちにとってたい

へん有益なことである。地区党委員会機関の活動の形態と方法の改善についての具体的な提案をいただきたい。アンケートの設問は一二項目で、択一と記述で回答し、回答用紙には氏名、勤務先、役職を記入するようになっていた。

(二) 代議員の構成

党協議会に出席する代議員の登録は開催当日、午前八時から五〇分間行われた。第一書記が、党協議会の冒頭で代議員の出席状況について報告した。党協議会速記録から引用しよう。¹²⁾「同志諸君、ソ連共産党モスクワ市オクチャーブリ組織第三四回協議会には、六八五名の代議員が選出された。きょうは六五七名が出席しており、二一名が正当な理由で欠席した。欠席の内訳は、病気が一九名、アルメニア地震被災地への救援活動が三名である」。第一書記は、無断欠席七名については発表しなかった。つぎに資格審査委員会の代表者が、代議員の構成について報告した。党協議会議事録¹³⁾を読むと、かれは一見無味乾燥と思えるほど数字を並べながら、代議員の構成を報告している。かれの報告は、丹念な数字を紹介しながら「代議員の構成が、地区党員の全体を反映している」と結論づけている。しかしかれは党協議会代議員の構成を、地区党組織の党員構成の統計と具体的に比較しているわけではない。代議員の年齢構成を地区の全党員と比較すれば「六〇歳以上」と「四〇歳から六〇歳未満」の年齢層がともに七%多いのにならして、四〇歳未満は一四%少ない。年齢から代議員の構成をみるかぎり、地区の全党員の実態よりかなり高齢化している。労働者出身の代議員の人数は六一名で、全代議員の九%を占めている。しかしこの割合は、全党員のなかに占める労働者の比率よりかなり低い。代議員のなかで学術研究機関に勤務する知識人は一二四名、学校教育者は八一名、文化と芸術関係者は二二名、医師は三〇名で、これらの知識人の総数は二五七名である。つづくわえるならば、このなかにはソ連科学アカデミー会員が一五名、学位保持者が一五四名参加している。知識人の総数二五七名は代議員の三八%を占めており、こ

の比率は地区の全党員のなかで占める知識人の割合四二%よりも低い。このように労働者と知識人の代表が低く抑えられているのとは対照的に、国家機関と党機関から選出された代議員の比率が高い。

国家機関からの代議員について言えば、政府省庁の大臣と幹部、企業の支配人が一三九名で、全代議員の二〇%を占めている。その内訳は、一二名がソ連邦最高会議人民代議員もしくはロシア共和国最高会議人民代議員、四六名がモスクワ市ソビエト人民代議員または地区ソビエト人民代議員である。党協議会の代議員のなかには、一二名の軍事施設からの代議員が参加している。代議員のなかには、社会主義労働英雄八名、レーニン賞とソ連国家賞の受賞者二四名が含まれている。ここでもっとも注目すべきことは、党機関出身の代議員が、全代議員の過半数以上を占めていることである。特に、初級党組織の書記が二八五名も参加している。この人数は全代議員の四二%を占め、地区内の初級党組織書記三八〇名の七五%にあたる。くわえて、職場党組織の書記と党グループオルグが五三名、ソ連共産党中央委員会の委員と委員候補が九名選出されている。かれらの人数を総合すると、党機関で働く黨員が三四七名に達し、全代議員の過半数を超える五一%を占める。⁽¹⁵⁾

(三) 基調報告と草案の作成

基調報告を行うのは、地区党委員会第一書記である。かれはこの報告のなかで、党協議会が前回開催された一九八五年一二月以降の地区党委員会の活動を総括した。すでに述べたように基調報告草案は、組織部の副部長が準備し、基調報告準備グループによって作成された。ここでは基調報告の特徴を明らかにするために、その草案と比較してみよう。

基調報告⁽¹⁶⁾では、党内問題が大きく扱われている。地区党委員会総会の活動については、つぎのように述べられている。「地区党委員会総会の準備に委員だけではなく、党とコムソールの活動家や地区ソビエト人民代議員も参加した。地

区党委員会総会委員は一九八五年以降、初級党組織をしばしば訪問し、住民とも面会し、問題への対処の仕方を学んだ。地区党委員会総会では法秩序、余暇、コムソモール、経済改革の問題が集中的に討議され、地区党委員会ビューロー会議の開催準備に役だった。このような活動のおかげで、地区党委員会総会委員の権威が高まり、地区の問題にたいするかれらの関わりが著しく強まった」。

このように基調報告では、地区党委員会総会の活動に「肯定的」な評価が与えられている。しかし基調報告では、その草案に書かれていた否定的な点が削られている。草案によれば「地区党委員会総会の開催準備には、総会のなかに設置されている委員会 (комитет) をとおして委員が参加している」。しかし「委員がつぎつぎと入れ替わったために、かれらは実力を十分に発揮することができなかった。この結果、わたしたちが今年度に予定していた計画は、六割から八割ぐらいが実施されただけである」。委員が頻繁に交代した理由については、草案には書かれていない。推測であるが、総会委員は別の職業と兼任しており、本来の職業のほうが忙しかったために、委員会の活動をほかの委員と交代せざるを得ないようである。さらに基調報告では、草案に書かれていた総会と地区党委員会機関の関係の問題が、すっかり削除されてしまっている。草案には、つぎのような記述がある。「地区党組織の決議機関である地区党委員会総会の役割が低下し、地区党委員会機関が総会の機能を代行している。総会委員たちは地区党委員会機関の各部の活動、決議の実施過程を厳しく管理しなければならない」。

この指摘は、重要な点である。地区党委員会機関は本来、地区党組織の決議機関である地区党委員会総会に従属し、総会の決議を実施する執行機関でなければならぬ。しかし今日では地区党委員会機関の権限が強くなり、地区党委員会機関が総会の決議の作成と実施にかなりの程度介入している。

つぎに基調報告は、地区党委員会ビューローの活動に言及している。報告によれば、ビューロー会議において「検

討事項の数が減少し、ビュロー構成員は初級党組織の活動経験を総括するために熱意を集中できる」ようになった。「ビュロー構成員は、初級党組織の党委員会書記や党活動家たちと面接し、住民と勤労者のための公開状の日と『直通電話相談』に参加した」。ビュロー会議では「三三人の経営幹部黨員と一八人の黨員の資格審査」が実施された。これとは対照的に草案によれば「どんな資格審査も、いかなる活動報告も不屈で丹念なものでなければ、良い成果を生み出すことはできない。この観点にたてば、ビュロー会議での資格審査と活動報告はまだ十分な結果を生んではいない」と批判している。

基調報告は、地区党委員会機関の活動について、ほとんど触れていない。わずかに触れた箇所には「政治的指導を強化するためには、地区党委員会機関の構造的な改革、部門別の活動分担の廃止が必要である。わたしたちは、勤務評定と研修制度を実施し、労働集団によって選出された一三人の党活動家を採用した」と書かれている。ここで指摘されている「構造的な改革、部門別の活動分担の廃止」とはなにを意味しているかについては、触れられていない。

草案は、この問題をもう少し具体的に指摘している。「地区党委員会機関の改革のねらいは、工業、建設、科学、商業といったように分野別に分散している部を統廃合し、現在の状況に適應した党の活動形態をつくることにある。これに関連して、一二人が勤務していた工業・交通部、科学と大学部、商業と日常サービス部は廃止され、新たに設置された社会・経済発展部で六名が働いている。プロバガンダ・アギターツィア部は、イデオロギー部の新しい機能をよく理解していない。モスクワ市党委員会は、この問題について見解を表明しておらず、たしかに部名は改称されたが、機能は旧来どおりのままである」。この草案を読むかぎり、党の活動分野が変わってきていることがわかる。これまで広範な経済問題に関わってきたが、この問題にともなう負担の軽減を求めている。さらに草案では、地区党委員会機関の活動に関連して「初級党組織を指導する機関員の人数が不足しており、一人の機関員が二〇もの初級党組織を担当してい

る。これは、明らかに多すぎる。わたしたちは機関員の人数を増員するようにモスクワ市党委員会に要請したが、同意を得られなかった」と指摘している。

以上のように第一書記の基調報告は草案と比較すると、地区党委員会の活動についての詳細な分析を行っていない。基調報告は、地区党委員会の活動については詳細に検討していないのにならして、企業、施設の初級党組織の活動にたいしては細かに検討し、厳しく評価している。草案が、初級党組織の活動についてあまり触れられていないのとは対照的である。基調報告が初級党組織の活動に多く触れている理由は、党協議会代議員の四二%が初級党組織の書記であるからであろう。初級党組織の今日の役割について、基調報告はつぎのように言う。「党全体の権威は、初級党組織の活動にかかっている。その活動は、ペレストロイカの成否を決定するほど重要であって、初級党組織のまわりに非党員の勤労者を結集するものでなければならぬ。そのための努力が、労働集団における組織・教育活動の発展、指導の行政・指令的方法の怠慢との戦い、勤労者の社会環境の配慮に向けられているところでは、党員の権威が高く、企業の経営状態が安定している」。職場では党組織の決定が、勤労者の意志であると見なされてきた。基調報告では、このようなやり方からの脱却を訴えているのである。

基調報告では、オルジョニキーゼ名称機械工作工場初級党組織が、党の任務を実行していない組織として槍玉に挙げられている。「工場は新しい経営状態への移行のさいに、大きな困難に直面した。党組織と党員カードルには経済改革の深化が要求されているにもかかわらず、かれらは労働者の給料の増額という間違った決定を行った。この結果、工場は倒産の寸前まで追い込まれた。労働生産性は一二%減少したにもかかわらず、平均給料は三%上昇した。このために負債総額は、七〇万ルーブリに達した。党委員会は、いったいなにをしていたのか。当時のフエダサーエフ党書記は傍観者になり、党員たちになら援助を提供しようとはしなかった」。ソ連では一九八七年以降、「独立採算制」が導入

され、政治の民主政策として勤労者による企業支配人の「直接選挙」が実施されるようになった。支配人は労働者の要求を満たさないかぎり、選出される可能性は少なく、このために企業経営よりも労働者の要求を優先させてしまう。この機械工作工場のように、支配人は労働者の給料の増額を安易に認め、逆に経営事態は悪化してしまった。政治的民主主義は必ずしも経済的民主主義と両立するわけではないことが、明らかになった。

フェダセーエフ初級党組織書記の弁明によれば、「党委員会は初級党組織のなかで孤立しており、党の規律は弱体化してしまった。黨員たちは黨員集会で同じ問題を、例えば機械組立職場の機械補充、公共食堂と労働条件の改善、生産における機械化の問題をいつも議論している。黨員集会に出席する経営カードル、党カードルはまったくの形式主義者である。かれらはいつもの同じことを約束し、ときには無責任な指令を発表してしまうために、経営カードルと党委員会にたいする黨員と非黨員の信頼は薄れてしまった」。地区党委員会第一書記は、この問題にたいする自分の責任について「現状を適時に把握することができなかった。数字のうえからは労働集団の様子を知ることができなかった」と説明し、「このような事態は孤立採算制で操業しているほかの企業においても繰り返し起こり得ることだ」と警告している。

つぎに基調報告は、「より困難な問題」を提起している。全ソ連邦労働組合中央評議会の党委員会書記と地区党委員会ビュロー構成員を兼任するフロロフは、一年前に自分の職場の黨員たちにペレストロイカの指導について報告した。そのさいに「黨員たちは全体としてフロロフの活動を支持し、この一年間はなら重大な問題が発生しなかった。しかし今回の黨員集会では秘密投票の結果、かれは党委員会の構成員に選出されなかった。これは、いったいどういうことなのか。党の指導者、とりわけ地区党委員会総会委員、ビュロー構成員、初級党組織書記にたいする一般黨員たちの要求は、計り知れず増大している。党機関員は、たんに真面目に働くだけでは不十分なのだ。一般黨員はペレストロイカの熱心な支持者であり、党の新しい形態と方法をつねに探究する指導者を求めている。クラスヌイー・プロレ

タリー工場の研削工コズリヨーフは、党指導者の能力への信頼を失ったとして脱党した」。基調報告のなかでは、脱党者の人数は公表されなかった。

(四) 決議の採択と政策実施計画

地区党組織協議会議案は、すでに述べたようにイデオロギー部長が作成し、決議案準備グループの審議を経て、党協議会に提出される。決議案は党協議会の開催当日に各代議員に配布され、代議員の提案と意見はメモにして編集委員会に提出される。代議員に配布された決議案には通し番号が振られており、それは党協議会の終了後ただちに回収された。党協議会決議を読むと、基調報告の内容と同様に地区党委員会の活動に触れた箇所が少ない。わずかに言及されている部分では、「地区党委員会の重要な任務は指導の政治的方法を身につけ、地区内の問題の解決を全党的な使命として位置づけることである」と書かれているだけである。

基調報告では初級党組織の責任が追及され、決議では初級党組織の自主性の拡大に重点が置かれている。決議によれば「党内民主主義の発展は、初級党組織の役割の増大、党組織の自主性の拡大、上からの細かい法規則の解消、党組織の権威の強化の問題を提起している。党活動から行政的、強圧的な方法、国家機関と経営機関の代行を排除し、各分野で働く党員をとおして、党の政治的な立場を實行しなければならぬ」。初級党組織の自主性の拡大が唱えられているのは、逆に言えば初級党組織の活動が複雑化しており、地区党委員会がこれまでのように指導できなくなっているからであろう。決議のなかでは、職場の党活動について「つぎのように述べられている。「党員集会は、質的に新しいレベルに達しなければならぬ。党員集会では、初級党組織の実践活動を強化し、思想・理論問題の解決についての公開性、グラスノスチ、議論の自由、広範な実務的議論を真に党的なものに変えなければならない」。

ところで決議は決議案の三方所を訂正し、採択した。党協議会が開催された一九八八年後半、モスクワでは自発的な市民団体がはじめて登場した。市民団体が当時、独自の規約、綱領、標章等を掲げなかつたので「非公式団体」とよばれた。これらの非公式団体にたいする党の態度について、決議案に補充がなされた。草案には、つぎのように書かれていた。「自主的な『非公式』団体にたいする働きかけを継続し、実践活動のなかでこれらの団体を利用し、実生活から遊離した見解をもつデマゴグと急進革命派を攻撃しなければならぬ」。決議案では、デマゴグと急進革命派の活動にたいする警戒、つまり自主性にたいする警戒が前面に押し出されている。さきに述べたように、初級党組織には「自主的に活動せよ」と言いながら、非公式団体の自主的な活動には警戒している。非公式団体の活動は、たとえ共産党の政治支配を直接に脅かす性格のものでなくとも、地区党委員会に緊張を引き起こしている。これまでは一切の社会団体が共産党員のイニシアチブのもとで組織され、その活動は黨員をとおして地区党委員会が統制していた。党協議会の決議では、非公式団体の自主的な活動に法律的な歯止めがくわえられた。党からの働きかけが功を奏しないならば、法律に頼らざるを得なくなるのである。「政治システムの改革と法治国家の形成の問題は、地区党委員会と初級党組織が勤労者、住民の法教育のベレストロイカ、法意識の形成にむけた普通義務教育の組織化、ソ連法の遵守の教育、社会主義的な民主主義文化の教育についての有効的な方策を採択することを求めている」。

決議に修正がくわえられた二つ目の箇所は、地区党委員会と地区ソビエトの関係についてである。決議案には、「地区ソビエト人民代議員の活動にたいする地区党委員会の関心が、高まる必要がある。特に地区党委員会が地区ソビエトの活動を代行している点については、地区経営の一切の問題を地区ソビエト執行委員会に引き渡さねばならない」と書かれている。しかし決議では、地区ソビエトの経済問題にたいする責任がくわえられ、つぎのように訂正された。「地区党委員会は、党機関と地区ソビエト人民代議員の機能の分離という政策を断固として実行し、経済発展計画の実

現への地区ソビエトの役割と責任を高め、地区全体の独立採算制と自己資金調達制への移行のために地区ソビエトの自主性を強化しなければならない。企業、その労働集団評議会、社会組織と地区ソビエトの間の相互関係を強める」。だが、地区党委員会と地区ソビエトの活動の分離を、現実問題としていかに実現させるかについては、だれにもわかっていなかった。結果的には一九九〇年三月、地区ソビエト人民代議員選挙で立候補した地区党委員会機関員の全員が落選することによって、両者の分離が達成されることになる。

決議案が修正された三つ目の箇所は、人民代議員の活動にかんする問題である。決議では地区党委員会と初級党組織は、近い将来に実施される「ソ連邦最高会議人民代議員選挙と地方ソビエト選挙の運動準備に関心を集中しなければならない。地区党組織協議会はモスクワ市ソビエト、ソ連邦最高会議とロシア共和国最高会議の党員代議員たちが、法律にしたがって総合的な活動報告を有権者だけではなく、地区内の党機関にたいしても行わねばならない」という決議案の指摘はそのまま残された。しかし決議では、草案にあった「モスクワ市ソビエト、ソ連邦最高会議、ロシア共和国最高会議に選出された人民代議員はオクチャープリ地区とその住民の利益を表明すべき活動があまりにも弱体である、とオクチャープリ地区党組織協議会は評する」が削除された。決議案にこのような三つの問題で修正がくわえられた。党協議会は最後に「代議員の批判的意見と提案を総括し、一九八九年一月中にそれらの実施措置を作成するように地区党委員会に要請する」ことを決議した。

この実施計画表を作成したのは、総務部長である。この計画表には、批判的意見と提案をおこなった代議員の氏名、意見と提案の内容、実施のための措置、実施責任者、実施期限が記入されている。その議事録^⑨に収録されている一つの事例を、以下に引用しよう。

「議題番号、第三二番

提案者、スハーノフ M・H・

提案内容、人民代議員ソビエトのなかに、青年問題にかんする常設委員会を設置せよ。この活動の基本的な方向と原則は、コムソモール地区委員会、青年党員、地区党委員会の共同でまとめられるべきである。青年問題を担当する代議員は、ソビエトにおけるほかの活動から解放されねばならない。そしてこの代議員は、労働集団とコムソモール初級組織の提案に基づいて選出されなければならない。

措置、一九八九年に行われる地方ソビエト選挙の準備と実施のさいに検討される。

責任者・実施期間、ソ連共産党地区委員会組織部、一九八九年一月」

この計画書では、四六件の意見と提案について検討されている。この四六件のなかで組織部が担当するのは二〇件、社会・経済発展部は一二件、イデオロギー部は一件、総務部は二件となっている。ビュローは、一九八九年一月一二日に開催された会議で「第三四回地区党組織協議会での批判的意見と提案の実施計画」を採択し、議事録^②には以下のように記されている。「ソ連共産党地区委員会ビュローは以下のように決議する。第三四回地区党組織協議会で党員によって表明された批判的意見と提案の実施計画を承認する」。

三 地区党委員会総会

地区党組織協議会は、すでに述べたように二、三年に一度の割合で開催される。地区党委員会総会は、党協議会が開催されていない期間の代議機関である。この総会はソ連共産党綱領にしたがって少なくとも三カ月に一度開催され、会期はほとんどの場合が一日である。

(一) 委員の選出と構成

オクチャーブリ地区党委員会総会は、委員一〇三名と委員候補二三名から構成されている。しかし総会委員の構成人数は、ソ連共産党綱領に定められていない。オクチャーブリ地区党委員会ではいわば習慣として、委員一〇三名と委員候補二三名となっている。かれらは、党協議会において選出される。委員候補は、地区党委員会総会では投票権をもっていない。委員候補を除く委員の構成の詳細については、「オクチャーブリ地区党委員会委員名簿」⁽²⁾をもとにして紹介しよう。平均年齢は四七歳である。四〇歳代と五〇歳代が、全体の七七%を占めている。オクチャーブリ地区の一般党員の構成は、六〇歳代が二八%でもっとも多いのにたいして、総会の委員構成では五%を占めているにすぎない。一般党員の構成では四〇歳代は二二%であるのにたいして、委員の構成では四一%を占めている。委員の年齢構成は、地区全体の一般党員の年齢構成よりかなり若くなっている。

つぎに、総会委員の職業構成をみよう。初級党組織の書記、企業と施設の支配人、地区党委員会機関員、地区ソビエト執行委員会の幹部の総数は、委員全体の六五%を占めている。例えば、地区内の大きな工場「クラスヌイー・プロレタリー」からは総支配人、党委員会の書記、修理工の三名が加わっている。科学アカデミーの研究所を含めた学術研究所設と大学からは、二名の科学アカデミー副総裁、科学アカデミー幹部会の党委員会書記、科学アカデミー化学物理学研究所の党委員会書記、科学アカデミー一般物理研究所実験部長、科学アカデミー電気科学研究所長、全ソ連邦経済科学調査研究所長、モスクワ鋼鉄・合金大学長、モスクワ石油・ガス大学長、モスクワ鉱山大学の党委員会書記ら総数三八名が加わっている。政府機関からは、ソ連邦通信機器工業省の党委員会書記、ソ連邦石油ガス工業省業務管理部長ら総数六名が参加している。地区党委員会機関からは、第一書記、第二書記、書記と五人の部長、全ソ連邦レーニン共産青年同盟(コムソモール)オクチャーブリ地区委員会第一書記ら九名、地区ソビエト人民代議員執行委員会からは議長、

図表 2 地区党委員会総会委員の選挙結果

	信任票	不信任票	割合
地区党委員会機関第一書記	6 1 7	3 4	1 5 %
第二書記	6 3 1	2 0	3 %
書記	6 1 5	3 6	6 %
組織部長	6 1 9	3 2	5 %
イデオロギー部長	6 2 4	2 7	4 %
社会・経済発展部長	6 2 8	2 3	4 %
総務部長	6 3 9	1 2	2 %
財政・経営部長	6 4 0	1 1	2 %
地区ソビエト執行委員会議長	5 0 0	1 5 1	2 3 %
地区ソビエト執行委員会副議長	6 3 5	1 6	3 %
地区ソビエト執行委員会書記	6 3 7	1 4	2 %

資料 Список кандидатур для тайного голосования по выборам членов Октябрьского районного комитета КПСС г.Москвы от 24 декабря 1988г.

副議長、書記、内務管理部長（民警）ら四名が加わっている。

党協議会での地区党委員会総会委員の選挙では、地区党委員会機関組織部長が一〇三名の候補者名簿を提出し、全員が選出された。しかし投票結果では、全員が満票を得たわけではない。一〇三名のなかで不信任票が多かったのは地区ソビエト執行委員会議長で、信任五〇〇票にたいして不信任は一五一票（二三％）であった。地区党委員会機関と地区ソビエト執行委員会から選出された地区党委員会総会委員の選挙結果を図表2の内部資料²²⁾で見よう。この選挙結果は、一般黨員に公表されない。

(二) 議事の作成と開催の準備

つぎに地区党委員会総会の開催が、どのように準備されるのかを検討する。総会の議事、開催月、担当する委員会については事前に、ビューロー会議で決議される。総会の開催は、三カ月おきに作成される「オクチャープリ地区党委員会活動計画」²³⁾のなかで明示される。総会の会場は多くの場合、地区党委員会機関の建物のなかの大ホールである。しかし例えば一九八八年六月一日の総会は、地区内にある青年科学技術発展館で開催された。この準備についての地区党委員会

機関と地区ソビエト執行委員会の合同会議が、五月二四日に開かれた。会議の議事録⁽²⁴⁾によれば、青年科学技術発展館の内部と周辺環境整備が話し合われた。発展館の敷地内のガス本管を土中に埋めること、敷地内の建設資材とゴミを撤去すること、敷地に囲いをつくること、会場内の整備については火災時の吸煙自動機械装置を設置すること、ビューフェに煮沸器（五〇型）を設置すること、全ソ連邦労働組合中央評議会からの会議用椅子三〇〇個と演壇用椅子を借用すること、クロークを拡充することが決められ、それぞれの項目についての実施責任者と実施期限が定められた。議事録には、地区党委員会第一書記と地区ソビエト執行委員長が署名している。このような地区党委員会機関と地区ソビエト執行委員会の合同会議の内容を読むかぎり、例えばガス本管を土中に埋めるといった問題は、本来は地区ソビエトの仕事である。地区党委員会と地区ソビエトの活動の分離の問題が提出されていると先に述べたが、実際には党の行政機関化は続いている。

ところで、地区党委員会総会の議事は広範な領域に及んでおり、党内問題に限定されていない。一九八九年の主要議題のいくつかを、ビューロー会議議事録に収められている「オクチャーブリ地区党委員会活動計画⁽²⁵⁾」から挙げてみよう。「地方ソビエト人民代議員選挙の準備と実施にむけたオクチャーブリ地区党組織の活動計画について」（一九八九年一月）

「労働集団における民主化、自主管理の促進についての地区党組織の任務と企業、組織における社会・経済発展の問題の解決にむけた党委員会、党ビューローの政治指導の向上について」（一九八九年九月）

「労働集団と住民のイデオロギー、思想・教育活動の向上のための党組織の任務について」（一九八九年六月）

「第二七回モスクワ市党組織協議会と第三四回オクチャーブリ地区党組織協議会の決議で打ち出されたペレストロイカの深化にかんする地区党組織の任務について」（一九八九年三月）

第三四回地区党組織協議会代議員に配布された資料によれば、一九八七年における議事項目の総数は一五件で、その内で党内問題は八件である。党内問題の内訳は「初級党組織におけるカードルの配置と選挙」五件、「地区党委員会総会委員の活動報告」一件、「労働、日常生活、休息の条件を改善するための党組織の役割」一件、「教育活動にかんする党員幹部の報告」一件となっている。さらに「企業カードルの資格向上」一件、「商品の質の向上」一件である。

ところで、地区党委員会総会の主要な議事項目が決定すると議事内容に直接にかかわる地区党委員会機関の部は、総会の開催の二カ月前にはかの部の了承を得たうえで、担当の書記と相談して具体的な準備にとりかかるといわれる。総会の開催手続きについては、「ソ連共産党オクチャープリ地区委員会機関における文書の取扱い規定」に明記されている。この規定によれば、地区党委員会のなかには五つの委員会が設置され、地区党委員会機関員は総会委員の協力をえながら準備にとりかかる。五つの委員会の構成は、ビューロー会議事録⁽²⁶⁾に以下のよう記されている。

『党・組織とカードル活動委員会』は、議長がクブリン第一書記で、ロージン組織部長ら二七名の地区党委員会機関員と四名の総会委員から構成される。『イデオロギー委員会』は、議長のリヤシェンコ第二書記、ペリフィリーエフ・イデオロギー部長ら一〇名の地区党委員会機関と一七名の総会委員からなる。『社会・経済発展委員会』は、議長がクラスヌイイー・プロレタリ工場⁽²⁷⁾の総支配人キリーロフ、社会・経済発展部長リトヴィーノフら四名の地区党委員会機関員と総会委員二一名から組織される。『科学・技術発展委員会』は、議長が地区党委員会書記ムラヴレョーフ、地区党委員会機関員三名、総会委員二一名から構成される。『青年活動委員会』は、議長がモスクワ鉱山大学長ブーチコフ、地区党委員会機関員六名と総会委員一〇名からなりたっている。

「ソ連共産党オクチャープリ地区党委員会機関における文書の取扱い規定」によればこの五つの委員会が、地区党委員会機関の各部の協力を受けながら地区党委員会総会の準備にとりかかるはずである。しかし、ビューロー会議の報

告書「一九八九年における地区党委員会委員会の活動総括と一九九〇年にむけた活動の改善方法について」で指摘されているように、「総会委員の活動が不活発である。多くの場合、委員が参加しない。地区党委員会機関員たちの会議で、問題が事前に議論されている」。

総会の基調報告案と決議案は、開催準備担当部の部長が作成し、それらは「試案・一」と呼ばれている。つぎに、編集委員会で検討される。担当部は、基調報告案と決議案を検討する「編集委員会」を組織する。編集委員会の構成員は委員会のなかから選出され、第一書記が構成員を承認する。例えば、一九八九年六月二十九日開催の地区党委員会総会「労働集団と住民のなかで活動する党組織の黨員のイデオロギー的、大衆・政治的、教育的活動の基本的な方向について」の編集委員会の構成員については、地区党委員会イデオロギー部の内部資料をみればわかる。地区党委員会第二書記と財政・経営部長、エネルギー調査研究所実験部長、モスクワ市立ピオネール宮殿副支配人、学術雑誌『マイルスリ』の編集長、モスクワ鋼鉄・合金大学の党委員会書記、国立ベアリング第二工場の支配人、地域党組織（オクチャープリ地区人民代議員ソビエト執行委員会第一住宅建設修理利用連盟に設置）の書記の八人が参加した。

編集委員会で検討された基調報告案と決議案は「試案・二」と呼ばれる。基調報告案と総会にむけた議案は、開催の一〇日前に開かれるビューロー会議に、「ソ連共産党地区党組織総会のための資料」として提出される。担当部は、総会において基調報告を論評する報告者を総会委員のなかから選び、第一書記の同意を得たうえで総務部と組織部に伝達する。くわえて担当部は、財政・経営部に地区党委員会総会への出席者に配布する入場許可券の見本を提出する。

イデオロギー部は総会の開催会場の飾り付け、録音テープの放送、挨拶状、映画の放送を準備する。財政・経営部は、会場内に編集委員会のための部屋を用意し、この部屋と会場を結ぶ放送設備を用意し、入場許可券と総会の決議案を印刷する。社会・経済発展部は、総会の出席者のための軽食券を準備し、ビューフェでの食事を用意する。総務部は、総

会の委員に配布される資料の印刷と参加者の登録を行い、総会の記録を作成する。

総会の議事内容は、議事録または速記録に収められる。議事録には決議だけが記されるのたいて、速記録には基調報告、委員の発言、質問等のすべてが記録される。議事録または速記録の表紙には通し番号が振られる。担当部は、総会の終了後二日以内に、参加者が表明した提案、意見、批判を検討し、最終的な総会決議を完成させる。総会決議の作成は、第一書記の署名でもって終了する。担当部は初級党組織に回覧する必要性があるならば、決議のゲラ刷りを校閲したあと、決議を印刷する。担当部は、決議の発送すべき初級党組織のリストを作成し、総務部に提出する。担当部は、参加者からの提案、意見を実施するための計画表を作成し、ビューロー会議に提出する。

四 ビューロー

ビューローということばは、ロシア語では三つの意味をもつ。元來は手紙机を示すことばであるが、一般的には「事務局」のことである。ビューローが政治用語として用いられるときには、集団合議機関を示し、ソ連共産党中央委員会にはポリト・ビューローとよばれる「政治局」、地方党機関には「ビューロー」、初級党組織には「党ビューロー」があった。オクチャーブリ地区党委員会ビューローは、少なくとも三カ月に一度開催される地区党委員会総会と総会の間に、その総会にかわって重要な問題を採択する決議機関であった。ビューロー会議は、地区党委員会機関の建物の四階にあるビューロー会議室（四〇七号室）において、通常は二週間に一度の割合で、木曜日午後三時に開催された。しかしこの開催については、ソ連共産党規約のなかにはなにも規定が書かれていない。オクチャーブリ地区党委員会では、いわば習慣として二週間おきに開かれていた。ここでひとまず注意を喚起しておきたいのは、ビューロー会議では重要な問題を審議しているにもかかわらず、その開催は非公開で、しかもなんら規定がないということである。

(一) 構成員の選抜

ビュローの構成員数を定めた規定はなく、通常は九名から一三名ほどである。オクチャーブリ地区党委員会ビュローは一九九〇年現在、一三名から構成されていた。かれらはビュローに専従活動家として働いているわけではなく、ビュロー構成員としての給料を受け取っていない。かれらの任期は特に定められておらず、オクチャーブリ地区党委員会の場合は約二、三年である。

ビュロー構成員は、地区党委員会総会においてその委員のなかから選抜される。選抜の具体的な過程については、一般黨員には公開されていない。ここでは、一九八八年二月二四日に開催されたオクチャーブリ地区党委員会総会の議事録⁽³¹⁾をもとに、ビュロー構成員の選出過程を再現してみよう。この総会は、第三四回オクチャーブリ地区党組織協議会の直後に開催され、党協議会で選出されたばかりの委員一〇四名のうち九三名と上級党機関を代表してモスクワ市党組織監査・統制委員会議長が出席した。モスクワ市党組織監査・統制委員会議長が、地区党委員会総会の開会を宣言し、ただちにビュローの実質的な最高責任者である地区党委員会の第一書記と第二書記の選出に移った。市党組織監査・統制委員会議長は、クプリンを第一書記とビュロー構成員に、リヤシェンコを第二書記とビュロー構成員に推薦した。上級党機関から推薦される人物は、このように文書ではなく口頭で伝えられる。市党組織監査・統制委員会議長は、会場のなかにほかの提案、意見および立候補の辞退がないのを確認し、投票に移った。

じつは党指導者の選挙は、ペレストロイカ以降の新しい現象ではなく、ソ連共産党規約のなかに明記されている民主集中制の原則「党機関のすべての指導者は選挙によって選出される」⁽³²⁾にもとづいて、ペレストロイカ以前から実施されることになっていた。一九八七年一月のソ連共産党中央委員会総会で、ゴルバチョフ書記長が新しく唱えたのは、複数候補の確立である。かれの提案から一年後に今回の地区党委員会総会が開催されたが、上級党機関からは第一書記

と第二書記に一名ずつの候補者が推薦された。複数立候補制は、実現しなかったのである。第一書記はモスクワ市党委員会総会委員であり、かれと第二書記はモスクワ市党委員会のノーマンクラトゥーラに登録されている。このノーマンクラトゥーラ制度は、一つの役職に一人の党員を推薦することを原則にしており、ゴルバチョフの提唱する複数立候補制の確立に障害になっていた。複数立候補制は、ノーマンクラトゥーラ制度を廃止しないかぎり実現されない。したがって第一書記と第二書記の選出は、地区党組織の党員の直接的な意志ではなく、上級党機関の意向にもとづいていたといえる。

総会委員に九二枚の投票用紙が配布され、九一票（出席者の一名が途中で退席）が投じられた。選挙結果によればクプリンへの賛成九〇票、反対一票、リヤシェンコへの賛成九一票、反対〇票であった。つぎに、残る一名のビューロー構成員の選抜に移った。じつは総会の開催前に、クプリン、リヤシェンコ、ロージン組織部長がビューロー構成員の候補者について、総会の有力委員の合意をとりつけるための「地区党委員会総会委員代表者会議」を招集した。総会では、クプリン第一書記が代表者会議の名において、ムラヴレョーフを地区党委員会書記とビューロー構成員に推薦した。会場の出席者のなかに提案、意見がなく投票に移った。この結果、賛成九一票、反対〇票でムラヴレョーフを選出した。クプリン第一書記が、残る一〇名のビューロー構成員を同様に推薦した。会場に提案、意見、立候補の辞退がないのを確認し、投票に移った。この結果、地区ソビエト執行委員会議長だけに一票の反対が投じられただけで、かれ以外の九名の候補者は全員一致で選出された。

すでに述べたように、第三回オクチャーブリ地区党組織協議会における地区党委員会総会委員の選挙ではクプリンに全体の五%、リヤシェンコに三%、地区ソビエト執行委員会議長に二三%の不信投票が投じられた。これにたいして、総会でのビューロー構成員の選挙では、不信投票が極端に少ない。総会委員は、地区党委員会機関組織部長の思惑によっ

て地区党委員会機関に従順な候補者が選出される、とさきに指摘しておいた。ビューロー構成員の選挙結果は、このことを裏付けていると言えよう。総会は、一般党員の意向よりも地区党委員会機関の意志が反映しやすいのである。

一三名のビューロー構成員の内訳⁽³⁾を見てみよう。職業別では地区党委員会書記が三名、地区ソビエト執行委員会議長、初級党組織の書記が三名、企業と施設の支配人が四名、労働者が二名である。初級党組織の書記のなかには、全ソ連邦労働者中央評議会機関党委員会書記チエボタレヨーフ、ソ連邦中型機械製作省党委員会書記ナソノフ、企業と施設の支配人のなかには、大工場「クラスヌイー・オクチャーブリ」の支配人キリーロフ、モスクワ鉱山大学の学長プチコーフ、ソ連科学アカデミー個体物理研究所長でソ連科学アカデミー副総裁を勤めるオシピヤーンがいる。労働者の二名は、「クラスヌイー・オクチャーブリ」工場と「工作機械組立」工場の労働者である。このようにビューロー会議の構成員は、地区党委員会書記と地区ソビエト執行委員会議長、大きな工場と施設の支配人、その党組織の書記、労働者から構成されている。女性は二名（全構成員の一五％）で、地区党組織における女性党員の割合三四％と比較するとかなり少ない。平均年齢は四八歳、最高齢者は六〇歳、最年少者は四〇歳で、五〇歳以上は六名である。地区党組織における党員の年齢構成では五〇歳以上が半数を占めているのと比べると、やや若い党員構成になっている。学歴について言えば、高等教育（大学）終了者は二一名（八五％）、中等教育終了者は二名で、地区党組織における高等教育終了者の割合五八％よりも高い。

（二）文書と決議の作成

ビューロー会議に提出される文書、決議案の作成方法と取扱いについては、「地区党委員会機関における文書の取扱規定」⁽⁴⁾のなかに記されている。この規定を手がかりに、ビューロー会議の開催がどのように準備され、決議が完成さ

れるかについて見てみよう。最初にビューロー会議の議題にしたがって、地区党委員会機関のなかに担当部と担当責任者が決まる。担当責任者は、部長ではなくインストルクトル（一般機関員）である。ビューロー会議の開催資料を盛り込んだ「オクチャャブリ地区党委員会活動計画」^(註)には、地区党委員会総会委員と地区党委員会機関員が構成する委員会名が掲載される。しかし実際には、委員会は活動しておらず、地区党委員会機関の部が会議の準備を行っている。担当部はビューロー会議の開催日の一五日以上まえに、担当責任者を中心に決議案、報告書、必要ときには付録を作成する。

ビューロー会議の決議案には決議実施の日付、対象となる党組織と機関の名称、実施責任者の氏名、実施の管理を担当する部名、決議の実施過程とその結果について報告する部名、その報告資料の提出日が明示される。ビューロー会議に招待される党員は、担当部の部長と担当責任者が決め、地区党委員会書記が承認する。この党員は、自分の関係する議題になるまでは、ビューロー会議室の外で待機する。ビューロー会議に提出される文書では、原則として組織、機関、施設の名称は省略されない。しかし、同一の文書のなかで何度か繰り返される場合には、最初に完全な形で記載すれば、それ以降は略称が用いられる。人名については党員の処分の箇所以外は、父称と名をのぞいた姓で記入される。決議案はタイプ用紙（A四）で五枚、報告書は六枚以上を超えてはならず、タイプ印刷の場合は一・五の活字間隔とすると定められている。決議案、報告書、付録は、地区党委員会の担当書記と担当部の部長によってマル秘印と文書番号が書き込まれ、「秘密文書取扱い規定」にしたがって扱われる。このように重要な文書は、ビューロー会議で決議、承認される以前に秘密扱いにされる。

部長が不在（休暇、病気等）のときは、代理人が指名される。決議案、報告書、付録、招待者と出席者のリスト、決議の送り先は、ビューロー会議の開催日の七日以上前に、担当部が総務部に提出する。総務部は、議題にかんする文

書をビュロー構成員に、会議の開催日の五日以上前に配布する。ただしカードル問題、初級党組織の活動審査、賞与と名誉称号の授与については、会議開催の三日前に担当部が総務部に提出する。これらの議題についての文書は、予めビュロー構成員に配布されるとは限らない。これらの議題は秘密なのである。ビュロー会議の構成員は、会議の終了後文書をただちに総務部に返却する。

担当部は、ビュロー会議の決議を当日の会議で提出された意見、提案、批判を考慮に入れて完成させる。担当書記と担当部の部長が点検したあとで、総務部に提出する。完成した決議は、書記以外のビュロー構成員によって点検されることはない。決議の提出期限は、会議開催日から四日以内である。緊急に完成させる必要のある決議は、会議の開催日に作業を終了させる。決議の完成に四日以上の日数を要する場合には、作成終了期限と担当責任者を決める。ビュロー会議においてさらに詳しい検討を行う場合は、決議は次回の会議までは「継続審議」として保留される。ビュロー、地区ソビエト執行委員会、コムソモール地区委員会ビュローが、会議を合同で開催することがある。この決議には地区党委員会第一書記、地区ソビエト執行委員会議長、コムソモール地区委員会書記の三者が署名する。

完成した会議の決議を受け取った総務部は、地区党委員会第一書記の署名の日から二日以内に決議を印刷し、関係する初級党組織に配布する。決議のなかで直接に議論されている党組織には七日以内に、配布リストに単に記載されている党組織には二週間以内に届ける。もし決議が、ソビエト機関に向けられた指令、指示である場合には、担当部は「決議」にかえて第一書記が署名する「報告書」を作成し、それを配布する。このように地区党委員会がソビエトにたいしてビュローの「決議」ではなく、「報告書」にかえて配布するのは、ソ連共産党綱領のなかに書かれている党はソビエト人民代議員の自立した機能を代行せず、ソビエトで「働いている共産党員をとおしてソビエト指導する」という規定があるからである。総務部は決議の配布を終了した時点で、毎週水曜日の午前九時に地区党委員会第一書記執務室に

において三人の書記、第一書記補佐官、五人の部長が参加する「事務会議」でその旨を報告する。初級党組織に配布された決議は、一カ月以内に総務部に返却される。

（三）議事内容

ビューロー会議の議題は三カ月おきに作成され、会議において承認される「オクチャーブリ地区党委員会活動計画」⁽²⁶⁾のなかに詳録される。活動計画書にはビューロー会議の開催日、担当責任者、担当部が記載されている。会議の主要な議題としては、初級党組織の活動審査、賞与と名誉称号の授与、党カードルの勤務評定、党員の懲罰、入党審査がある。議事録には、議題にかんする資料、文書、決議が収められている。ビューローは集団合議制の機関であるために、出席者の個々の発言、争点については議事録には書き入れられない。一つひとつの議事録の表紙には通し番号が振られ、この番号は党協議会の直後に開催されるビューロー会議の議事録からはじまる。議事録の表紙の左下には議事録の作成日、総頁数が付記されている。表紙の裏には「秘密文書取扱規程」⁽²⁷⁾に明記されている議事録の取扱方法が、つぎのように書き込まれている。「議事録は、勤務時間以外るときは封印または鉛封がある金属の金庫の戸棚（金庫）のなかに保存されねばならない。地区党委員会の建物から持ち出すことはできない。議事録をコピー、抜粋したり、公共印刷物、ソビエト、労働組合、コムソモール、経営機関の文書のなかに引用したりしてはならない。」

なぜ、ビューロー会議の議事録が、ソビエト、労働組合、コムソモール、経営機関の文書のなかでの引用が禁止されているのかについて考えてみよう。議事録にはこれらの組織、機関にたいして秘密にしておかねばならない高度に政治的な内容が含まれているわけではない。まして内容そのものは当該初級党組織の党員にとつては周知のことからであり、宣伝活動をとおして知られている。むしろ問題は、党の原則にある。ソ連共産党の規約のなかでは「国内の政治生活に、

国家と社会の業務管理に積極的に参加」するためには、労働者は高度に「意識的」で「自主性」を発揮しなければならぬと明記されている。つまり一切のイニシアチブが、一般黨員から発生しなければならないと考えられている。しかし労働者の意識は、自然発生的に生まれ出るものではない。かれらの自発性は、党指導機関によって、外部から働きかけられる。労働者に意識を注入することによって、ソビエト、労働組合、コムソモール、経営機関が、あたかもかれらの自発性にもとづいて、行動を起こしているように見える。労働者の自発性を生み出す「からくり」が、議事録の秘密に隠されているのである。議事録の第二頁目には、ビューロー会議の出席者名、議長名、モスクワ党委員会からの代表参加者名が列記されている。例えば、一九八七年一月一日に開催されたビューロー会議（主要議題「モスクワ市オクチャーブリ地区における住居面積の登録と配分の深刻な欠陥について」）の議事録⁽²⁸⁾の第二頁目には、議長と十一名の出席者の氏名が記載されている。

ビューロー会議の主要議題は、初級党組織の活動審査である。地区党委員会機関の作成した資料⁽²⁹⁾によればこの活動審査は三八項目で、党内問題から社会、経済、教育問題に及ぶ。党内の問題としては、党カードルの選抜と配置、黨員費の支払い、地区党委員会と初級党組織の関係、労働組合への指導、プロバガンジストの養成、社会・経済問題としては飲酒と麻薬の克服、医療と保健サービスの改善、消費物資の生産、商品の質の向上、住居問題、コペラチーフの活動、企業の経営幹部と専門家の養成、教育問題としては小中学校と大学にたいする物資援助、教育カードルの養成、祖国防衛訓練の指導である。ビューロー会議の一年間の議題項目は、一九八六年は一四四件、八七年は二三七件、八八年（一一ヶ月間）は一二〇件である。一九八八年の議題項目を分類すると、純粋な党内問題は四七件（三九%）、商業と教育問題は五一件（四三%）、企業の経営問題は二二件（一八%）である。議題名の一部を、以下に列挙しよう。

「一九八八年上半年における経営の新しい状況下での工業企業、建設、交通、通信、商業、日常サービス公共食堂、科学・

研究組織、設計・建設組織の活動総括と社会主義競争の総括および一九八八年における労働集団の任務の期限内達成について」（一九八八年七月二二日）

「経営の新しい状況下における、労働集団の指導およびソ連共産党第二七回大会の決議の実施と第一九回全ソ連邦党協議会の決議の実施にかんする電子管理機械研究所の党組織、管理部、労働集団評議会の活動の実践について」（一九八八年一月九日）

「教授スタッフの専門知識の向上と学習・教育課程の向上にかんする第五医学校党ビューローの役割について」（一九八九年四月六日）

「地区内のエコロジー状況の改善のための企業、組織、地区ソビエト執行委員会とその下部機関の党委員会と党ビューロー、労働者集団の役割について」（一九八九年一〇月一九日）

四 結 論

ここまでソ連共産党の末端指導機関の政策決定の過程を分析してきた。ソ連共産党という組織は外見的に、鉄の規律で拘束された一枚岩の中央集権的な組織と見なされることが多い。しかし現実には、党の指導機関と一般党員が組織する職場の初級党組織、さらには地区党員の代表者が構成する党協議会、そして党委員会総会との間に溝が存在していることがわかった。ソ連共産党にたいする既成概念と実態とは違うことが気づくが、重要なことは従来考えられていたように、ソ連共産党は単一の中央集権的な組織ではないという点である。党指導機関とこれを取り巻く一般党員の間で裂け目は、ペレストロイカの過程で広がるばかりであった。共産党といっても所詮、党員にとっては党指導機関のことであつて、逆にいえば党員たちは党職員に一体感をもっていたわけではない。このような乖離が、いつごろから生じ、ど

のような過程を辿ってペレストロイカ時代に表面化したかについては明らかでない。社会主義革命の時代に遡って、共産党の前身であるポリシエヴィキ党について考察することも必要であろうが、本稿ではそこまで立ち入る余裕はない。

ソ連共産党は結果的に、一九九一年に消滅した。いまから振り返って考えると、問題の焦点は共産党の多元化にあったように思える。この問題を最初に提起した政治家は、ゴルバチョフ元ソ連共産党書記長である。多元化といっても、一方で共産党がいくつもの政党に分裂することで実現する方法、他方では共産党の周囲に新しい政党が誕生する方法も可能性としてはあったが、当時、もともと現実的な方法として模索されたのは共産党は存続しながら、脱党する一部の一般党員が市民団体（一九八八年頃から知識人が中心になって結成）と合流し、新しい政党を創設することであった。しかし結果的には、そのどちらでもなかった。ソ連共産党は消滅し、それに代わる政党も誕生せずに、ソ連共産党は消滅に追い込まれた。本稿をとおして明らかになったのは、住民が政治権力のあり方、それへの自分の利害のかかわりたいして関心をもち、積極的に政治に参加する社会、いわゆる「政治化する社会」に対応できる政治能力を、オクチャール地区党委員会が有していなかったことである。共産党という、ある意味で高度に政治的な組織に組み込まれながらも、党職員は自分たちの活動に埋没するあまり、皮肉にも権力闘争という本来の政治活動には疎くなってしまったのである。

注

(1) Устав Коммунистической партии Советского Союза. М., 1988г.

(2) Так же.

- (3) Протокол №13 пленума Октябрьского РК КПСС от 30 августа 1988г.
- (4) Список поручений, данных на совещании по вопросам подготовки XXXIУ районной партийной конференции.
- (5) Список кандидатур, выдвинутых первичными организациями: выборные органы Октябрьской районной партийной организации.
- (6) Список членов Октябрьского РК КПСС г.Москвы. Список кандидатов в члены РК КПСС г.Москвы. Список контрольно-ревизионной комиссии Октябрьской районной организации г.Москвы.
- (7) Список поручений, данных на совещании по вопросам подготовки XXXIУ районной партийной конференции.
- (8) Так же.
- (9) Так же.
- (10) Так же.
- (11) Анкета делегата XXXIУ отчетно-выборной конференции Октябрьской районной организации КПСС г.Москвы.
- (12) Стенограмма XXXIУ конференции Октябрьской районной организации КПСС г.Москвы от 24 декабря 1988 года.
- (13) Так же.
- (14) Так же.
- (15) Проект Октябрьского районного комитета КПСС XXXIУ районной партийной конференции.
- (16) Стенограмма XXXIУ конференции Октябрьской районной организации КПСС г.Москвы от 24 декабря 1988 года.
- (17) Проект резолюции XXXIУ конференции Октябрьской районной организации КПСС г.Москвы.
- (18) Резолюция XXXIУ конференции Октябрьской районной организации КПСС г.Москвы.
- (19) Протокол №2 заседания бюро Октябрьского РК КПСС от 12 января 1989 г.

- (20) Так же.
- (21) Список членов Октябрьского РК КПСС г.Москвы.
- (22) Список кандидатур для тайного голосования по выборам членов Октябрьского районного комитета КПСС г.Москвы от 24 декабря 1988г.
- (23) План работы Октябрьского РК КПСС на III квартал 1989 г.
- (24) Протокол совещания в РК КПСС по вопросам проведения пленума РК КПСС 11,06,88г. в Доме научно-технического творчества молодежи.
- (25) План работы Октябрьского РК КПСС на I, II, III, IV кварталы 1989г.
- (26) Статистические показатели, характеризующие социально-экономическое развитие района в двенадцатой пятилетке; Материалы для делегатов XXXIV конференции Октябрьской районной организации КПСС.
- (27) Порядок и регламент работы с документами в аппарате Октябрьского РК КПСС.
- (28) Проткол №14 заседания бюро Октябрьского РК КПСС от 12 января 1989г.
- (29) Проткол №33 заседания бюро Октябрьского РК КПСС от 8 февраля 1990г.
- (30) Редакционная комиссия на пленум Октябрьского РК КПСС 29.06.89г.
- (31) Протокол №1 пленума Октябрьского РК КПСС г.Москвы от 24 декабря 1989г.
- (32) Проткол №1 заседания бюро Октябрьского РК КПСС от 24 декабря 1989г.
- (33) Список членов Октябрьского РК КПСС г.Москвы.
- (34) Порядок и регламент работы с документами в аппарате Октябрьского РК КПСС.

- (35) План работы Октябрьского РК КПСС на IV квартал 1989г.
- (36) Так же.
- (37) Инструкция по работе с секретными документами в окружках, горкомах, райкомах партии.
- (38) Проткол №75 заседания бюро Октябрьского РК КПСС от 1 октября 1987г.
- (39) Статистические показатели, характеризующие социально-экономическое развитие района в двенадцатой пятилетке; Материалы для делегатов XXXIV конференции Октябрьской районной организации КПСС.

(人文社会科学 研究科 助教授)